

【第3部】

社会教育における人権学習の進め方



学習形態について

ワークショップ(体験的参加型学習)

ワークショップとは、皆で意見交換や共同作業を行いながら進める体験的参加型学習を指します。指導する側、される側の関係で学ぶ研修会でなく、参加者が積極的に他者の意見や発想から、“気づき”、“学び合い”、最後に自らの“ふりかえり”をするという研修のプロセスで学び、参加者が体験的に参加することで、自ら納得し、態度・意欲が喚起され、行動につながる手法です。

ワークショップは、まず、簡単なゲームを通して参加者の心を開かせ(アイスブレイキング)、次に、テーマに迫るための活動(アクティビティ)、最後に、学習のまとめと反省(ふりかえり)という一連の流れで行います。アクティビティでは、パネルディスカッションやブレインストーミング、KJ法などの学習手法を使って行います。(次頁以降に詳しく説明してあります。)

ワークショップでは、進行や促進役を務めるファシリテーターが学習を進めますが、次の点に留意して進めることが大切です。

【留意点】

- ☆ 和やかな雰囲気づくりに努め、いろいろな考え方を認める。
- ☆ 参加者の主体性を尊重し、問題の解決に当たっては参加者の意見を尊重する。
- ☆ 話し合いの過程を大切に、マイナス意見であっても、貴重な話題提供として受け止める。
(ただし、偏見や差別意識を助長するような発言に対しては、話し合いの中で修正していく。)
- ☆ 参加者同士の対立的な状況が起きたり、参加者のプライバシーが侵害されたりしないように、事前に参加者の構成や実態などに十分配慮する。
- ☆ 自分と違う立場の意見を尊重し、否定しない、など、参加型学習の約束について参加者と共通理解する。

アイスブレイキング

- 簡単なゲームを通して参加者の心を開かせる。
 - じゃんけんゲーム
 - 自己紹介
 - グループ作り
 - 学習中の約束 など

単に雰囲気を和らげるだけでなく、ゲームをしながら自己紹介やグループ作りなどを行い、主活動(アクティビティ)へのつながりを考慮に入れて行うことが大切です。

アクティビティ

- テーマに迫るための活動を行う。
 - パネルディスカッション
 - ビデオフォーラム
 - ブレインストーミング
 - KJ法 など

様々な学習手法を組み合わせ活動します。
ファシリテーター(進行・促進役)の進行で、テーマの内容を深めたり、広げたりしながら学習します。
※ 学習手法は次頁以降参照

ふりかえり

- 学習全体のまとめと反省を行う。
- 気になる発言がなかったか確認する。

学習のねらいに沿ったまとめを行うとともに、今後の活動への意欲付けを行う。
人権上で気になる発言等はなかったか、参加者全員で確認することも大切です。

アクティビティで使われる学習手法

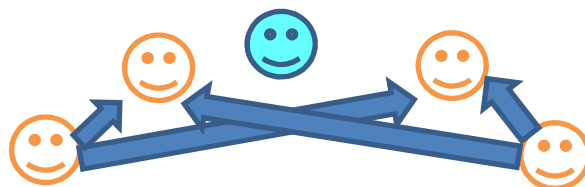
① パネルディスカッション

概要	<p>ある特定のテーマ(課題)について、専門的知識を持っている人や、その問題について代表的意見を持っている人がパネラーとして登壇し、司会の進行に基づき意見発表や討議を行い、会場の参加者(フロアー)との意見交換・討議も行う。多人数の参加者が効果的に研修することができ、意見を発表することで研修の成就感を高めることができる。</p> <p>人権に関する学習では、様々な人権問題に関して対立した意見も含めて現状を把握し、それに対する解決策を探ることなどに利用できる。また、シリーズの研修のまとめの段階で参加者からパネラーを選出して実施することにより、研修全体の総括として位置付けることもできる。</p>
進め方	<p>① 準備 パネラーの選出</p> <p>② 討議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各パネラーの主たる意見の発表 2 各パネラー間の討議 3 各パネラーの補足意見発表 4 フロアーとの意見交換 5 司会のまとめ
留意点	<p>司会、パネラーの事前の打ち合わせ時間を十分にとり、参加者間の意見の基本的な方向を相互理解した上で進めると討議の方向性がフロアーに伝わり、フロアー全体を含めた討議となることができる。</p> <p>司会が柔軟にパネラーの討議に参加したり、フロアーに代わって質問したりすることも効果的である。</p>

① パネラーの主意見の発表



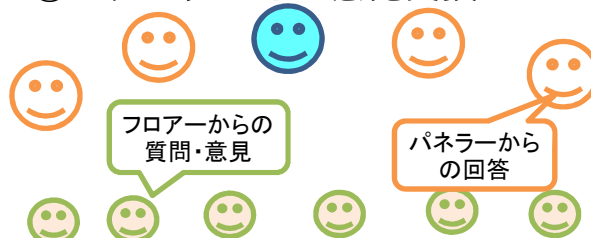
② 各パネラー間の討議



③ 各パネラーの補足意見発表



④ フロアーとの意見交換



⑤ 司会のまとめ

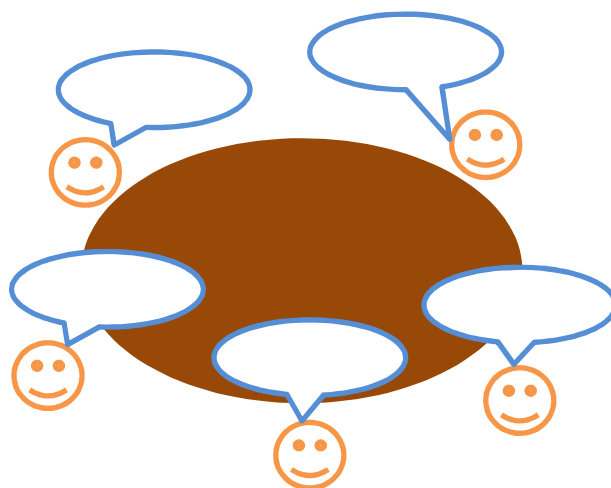
② ビデオフォーラム

<p>概要</p>	<p>研修の課題をテーマとした映画やVTR等を参加者全体で視聴し、その後、司会者の司会のもとで参加者全体で討議等を行う。</p> <p>討議等の方法は、バズセッション、パネルディスカッション等、研修の人数や位置づけなどで工夫する。討議に替えて講師によるレクチャーと質疑というような方法も考えられる。</p> <p>人権に関する学習では、様々な人権問題の現状等を共感的に理解するために、映画等の教材は極めて有効なものである。参加者に感動を与えるとともに、問題の在り方を具体的にとらえて考えることができるため、多様な学習者が学習に取り組みやすい手法である。</p>
<p>進め方</p>	<p>① 導入 視聴の前に、課題に関しての事前の学習や、研修目的の説明を行う。</p> <p>② 視聴 当該フィルム等を上映する。</p> <p>③ 討議 上映内容について、討議を行う。</p> <p>④ 評価 討議の内容等について参加者の自己評価や講師によるまとめを行い、評価する。</p>
<p>留意点</p>	<p>研修のねらいや目的を明確にし、それに対応した教材を選定する。時間配分を考慮し、話し合いの時間が十分確保できるようにする。</p> <p>討議は、できる限り少人数で設定するようにして、グループごとに助言者をつけるなどの工夫をする。</p>

① ビデオを視聴する



② ビデオを見た感想等を踏まえ、討議する



人権課題の解決に向けて
私たちは、どう行動すればよいのでしょうか



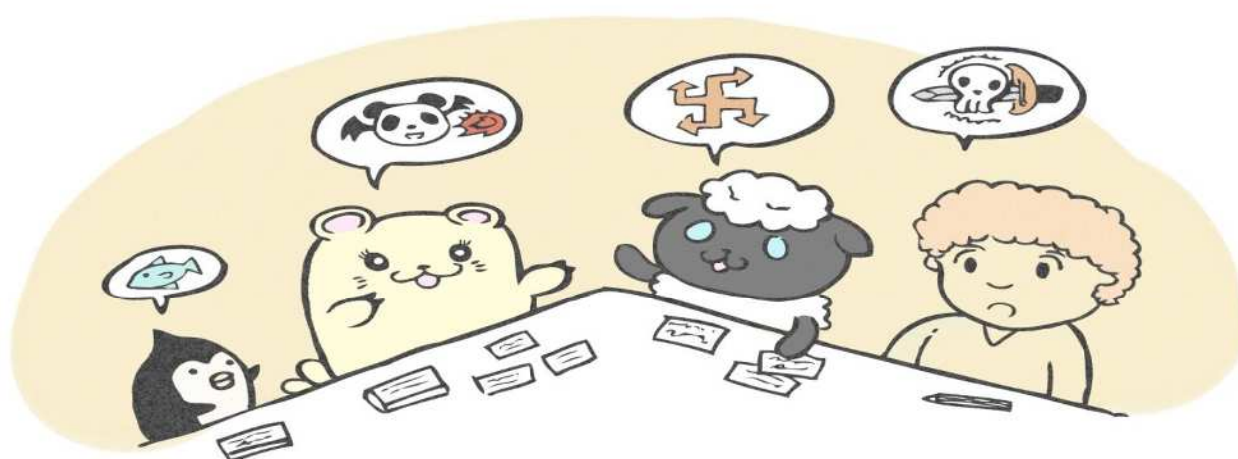
③

講師によるまとめ

③ ブレインストーミング

<p>概要</p>	<p>数多くある討議方法の中で、自由な発想で討議し、創造的に問題解決を目指す代表的手法。特定の目標の実現のためにアイデアを出し合ったり、様々な考え方ができる事柄についてグループとしての行動方針を設定したりする。その際、「他者の意見を正誤の判断をせずに受け入れる」「自由奔放なアイデアを奨励する」「どんな意見でも数多く出す」「他人のアイデアを活用したり組み合わせたりする」ことを原則として進める。5人～10人くらいの討議が一般的だが、多人数の場合はグループ分けして実施することもできる。</p> <p>人権に関する学習では、「様々な人権問題に関する具体的場面での行動の選択」「参加者が学習内容について希望を集約する場合」「自由・平等・優しさ等の抽象的言葉を具体的に話し合うことで人権を身近なものとして考える場合」等で活用できる。</p>
<p>進め方</p>	<p>① 導 入 ブレインストーミングの意義と目的の説明・進め方の説明</p> <p>② 問題提起 司会が討議するテーマについて投げかける。</p> <p>③ 討 議 司会の進行により討議を進める。記録者が参加者にわかるように黒板に記録する。グループの場合、カードに記録することも可。</p> <p>④ 評 価 出た意見を並べたり、並べ替えたり、組み合わせたりして新しい情報としてまとめたり、アイデアとして提示したりする。</p>
<p>留意点</p>	<p>全体で実施する場合は、発言しない人が出ないように司会が配慮する。グループで実施する場合は、グループの人数や発言の状況に指導者が留意して助言することも考えられる。</p>

ブレインストーミング



みんなで自由にアイデアを出し合うこと
 あなたらしい自由気ままなアイデアを言おう
 人のアイデアに便乗しよう。質より量。

④ K J 法

概要	<p>参加者全てのどのような意見も大切に扱われ、集団で創造的に問題解決が図られる点に特徴がある。</p> <p>収集した膨大なデータを整理するためにカードを使って一枚の図に収め、全体を見ながら討議する。収集したデータが全て生かされて、全体図の中で“自己主張”していることで、思わぬ発想につながる。</p> <p>情報をカード化して整理するので、参加者の全ての意見を集約できるし、カードの匿名性から自由な発想や本音の意見を引き出すこともできる。</p> <p>人権に関する学習では、様々な人権問題に関して対立した意見も含めて現状を把握し、それに対する解決策を探ることなどに利用できる。</p>
進め方	<p>① 導 入 使用する物品(カード、サインペン、クリップ、模造紙等)の準備、趣旨・実施方法の説明</p> <p>② カード作成 参加者全員がテーマに基づきカードを作成する。</p> <p>③ グループング 作成されたカードを全員で類似した意見にグループングする。</p> <p>④ 表札づくり グループングしたものに見出し(表札)をつける。</p> <p>⑤ 図 解 グループングしたカードを模造紙等に張り付け、グループ間の関係を明確にしていく。</p> <p>⑥ 評 価 全体について意見交換し、討議の成果をまとめる。</p>
留意点	<p>カード作成が中途半端になると全体の集約につながらないので、カード作成の参加者の責任を理解してもらい実施する。グループングで参加者の考えが尊重されるように配慮する。</p>



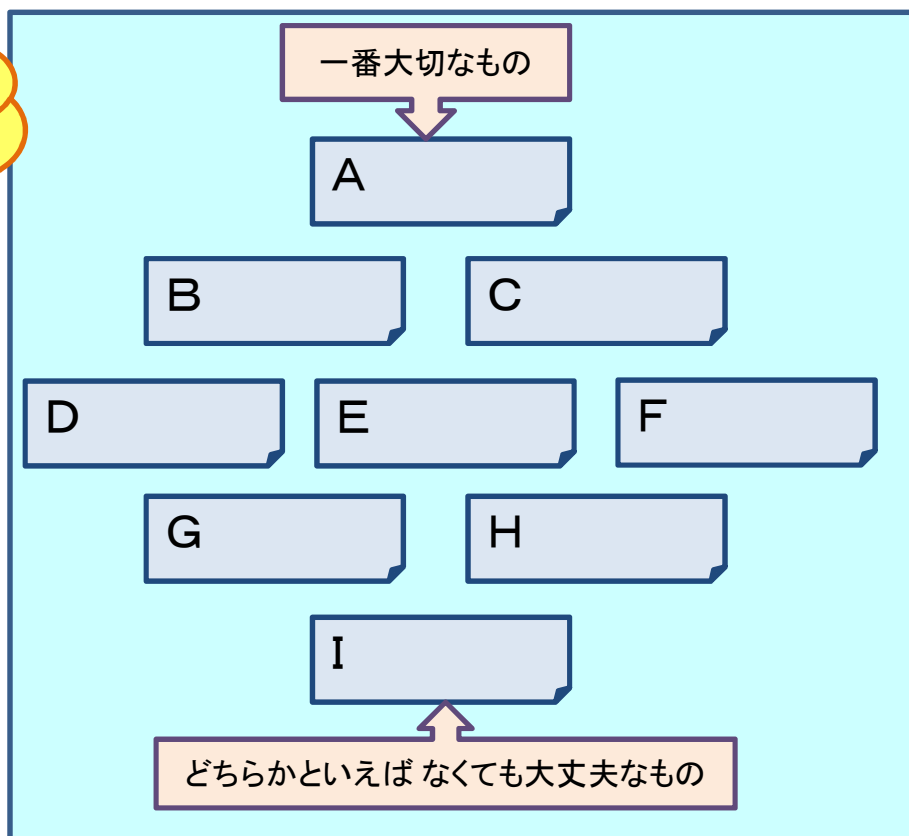
⑤ ダイヤモンド ランキング

<p>概要</p>	<p>様々なテーマについて、10個前後の権利・命題、具体的物品名等をカード等に記入し、参加者が自分にとって重要と考える順序にダイヤモンド型にランキング(順位付け)して、その根拠等を整理し、参加者相互が意見交換・討議を実施する。</p> <p>討議のプロセスでは一つの結果を導き出すということではなく、他者の考えを理解するとともに、コンセンサスを得ることに関する能力をトレーニングする観点で実施する。</p> <p>人権に関する学習では、様々な人権問題に関する事柄を自分の問題と関係させて考えることができるので、自分自身の人権や権利に対する考え方を整理することができる。一番に何をもちてくるのがいいのかを討議するのではなく、なぜその人がそれを一番にしたのか、その背景を聴くことで、価値観の違いを理解し、その人の考え方に寄り添ってみるのが大切です。</p> <p>また、ランクをつけなければならないため、どれも大切なのに、項目によっては低い位置に置かなければなりません。その苦しさを感じることによって、それぞれの項目の大切さを再認識することもできます。</p>
<p>進め方</p>	<p>① 導 入 実施するランキングの内容と目的の説明・進め方の説明</p> <p>② 展 開 1 カードの配布と参加者によるランキングの実施 2 ランキングの結果について参加者を小グループに分けて話し合いを実施する。 3 話し合いの後に自己のランキングの修正をしたり、各自の結果を研修会場に掲示して相互の理解を深めることもできる。</p> <p>③ 評 価 講師による評価や参加者相互の評価を実施する。</p>
<p>留意点</p>	<p>他者との比較にのみ注意が向いてしまうことがないように留意する。自分の考えを大切にするとともに、他者の考えを受け入れられるという観点で実施する。</p> <p>様々なプログラムと組み合わせて実施すると効果的である。</p>

「大切なものリスト」を右のダイヤモンド型のランキングに位置付けて、話し合います。

大切なものリスト例

- ① 自分自身
- ② 健康
- ③ 友達
- ④ 親もしくは子ども
- ⑤ 仕事
- ⑥ お金
- ⑦ 地位・名誉・肩書き
- ⑧ 趣味・遊び
- ⑨ 近隣の人



学習展開例

人権一般（差別・偏見・・・人を差別しない子どもを育てる親のあり方）

1 学習のねらい

どこの生まれであるか、どこに住んでいるかということだけで差別されている現状があること（同和問題）について知り、差別や偏見、同和問題をなくしていくために親がすべきことを考える。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる (10)	<p>1 学習のねらいの確認と雰囲気づくり</p> <p>(1) 学習のねらいの説明</p> <p>① ワークシートにある「振り返ってみましょう」をやってみましょう。時間は1分間です。</p> <p>② 「?：わからない」の回答がありましたか。自信をもって回答できない部分もありますが、子どもに対し、「人を差別しない人になってほしい」というのは、皆さんの願いでもあると思います。今日は『差別や偏見をしない子どもに育ていくために、親は、どのようにしていけばよいか。』ということについて、皆さんと一緒に考えていきましょう。</p> <p>(2) アイスブレイキング</p> <p>① 自分の名前とは全く違う名前（ゲームネーム）を決め、カードに大きく記入してください。</p> <p>② 自由に歩き回り、出会った人と挨拶をして、自分の名前を紹介し合ひましょう。時間は2分です。</p> <p>③ 今度は、互いに握手をして自己紹介をしましょう。時間は2分です。</p> <p>④ 近くの席に着き、4人で感想を話し合ひましょう。</p>	<p>□グループづくり（4人程度）</p> <p>□ワークシート</p> <p>■同和問題がなくなるというのは、同和問題を取り上げるから→×</p> <p>■いじめられる（差別される）側にもがある→×</p> <p>□『』内を板書または掲示する</p> <p>□サインペン</p> <p>□ネームカード（A6程度）</p> <p>■参加者が少ない場合は時間を短く設定する。</p>
気付く・考える (40)	<p>2 アクティビティ（活動）</p> <p>(1) ワーク1 ■個人→全体 「差別」疑似体験を通して、感じたことを話し合う。</p> <p>(2) ワーク2 ■個人→グループ 県民意識調査結果から、部落差別について考える。</p> <p>(3) ワーク3 ■個人→グループ→全体 エピソードを読み、職業差別について考える。</p>	<p>■ゲーム後のフォローで心の安全を守る。</p> <p>□県民意識調査</p> <p>■スクリーン等で提示してもよい。</p>
まとめる・広げる (10)	<p>3 学習の振り返りとまとめ</p> <p>(1) 学習を通しての新しい気付きや感想を発表する。 [例] 新たに気付いたこと、家庭で話題にしたいこと 等</p> <p>(2) 学習全体を通じたまとめ</p> <p>子どもの差別や偏見に気付いたときは、毅然とした態度で愛情を持って親の気持ちを伝えるとともに、自分の態度で示して行くことが大切である。そのためには、常に新しく正しい情報を得て、親自身の人権感覚をみがいていくための繰り返しの学習が大切である。</p> <p>※ 江口いとの詩「人の値打ち」を紹介する。</p>	<p>■個人→全体</p> <p>■発表は希望者のみとする。</p> <p>■最初に記入した「振り返ってみましょう」の選択が、学習前とふりかえり時とで変わったところがないか確認する。</p>

3 「気付く・考える」段階の進め方と留意点

進め方 (<input type="checkbox"/> 投げかけ)	留意点 (■) 準備等 (□)
<p>ワーク1 「差別」疑似体験を通して、感じたことを話し合う。</p> <p>① では、〜〜の方に、〔例1〕今、このグループにお座りになっていらっしゃる方に、〔例2〕椅子に、赤色のテープが貼ってある方に、) リボンをプレゼントしますので、リボンが他の方に見えるように、体のどこかに結びつけてください。</p> <p>② これから、自由に動き回って、また自己紹介ゲームをしていただきますが、やっぱり、もっと、お互いのことを知っていただくために、今度は、握手+名前+α(自分のこと何でも30秒程度で)とします。</p> <p>③ ただし、リボンを付けた方とは自己紹介せずに(つまり無視して)ゲームを進めてください。「差別」を疑似体験していただきます。リボンの方は、何をするんだろうと、ワクワクされていたかもしれませんが、「体験」ということで、御理解のほどよろしくお願ひします。時間は3分です。 ※ 自己紹介ゲームを通して、「差別」を疑似体験する。</p> <p>④ はい、時間です。御協力ありがとうございました。御自分の席にお戻りください。ワークシートに、感想を書き、その後、グループで感想を話し合ってください。</p> <p>⑤ どんな感想が出たか、皆さんに紹介してください。</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無視されて悲しかった。・ゲームと分かっているけど腹立たしかった。 ・リボンを隠したかった。・無視する方もつらい。・時間が長く感じた。 <p>※ 感想等をもとに、差別は、する方も、される方も、いやな気持ちになるということを確認する。</p>	<p>■全体の4分の1程度の方に、リボンをつける。 □〔例1〕リボンをプレゼントするグループを決めておく。 □〔例2〕椅子の背や裏に印を付けておく。</p> <p>■ゲームの前後でフォローし、心の安全を守る。</p> <p>■感想を共感的に受け止める。 ■感想が出ない場合は、グループの話し合いの観察により進行役から紹介し、感想を共有する。</p>
<p>ワーク2 県民意識調査結果から、部落差別について考える。</p> <p>① 次に、この県民意識調査の結果をご覧ください。(問19, 問20) (調査及びその結果について状況を説明する)</p> <p>② 結果を見て、考えたことをワークシートに書いてみましょう。</p> <p>③ それでは、グループでこれらの差別意識がなくなるのはなぜか。どうすれば、なくなるかについて話し合ってみましょう。</p> <p>※ 資料(問16)で、最初のきっかけは「家族」が18.9%もあることに注目し、子どもたちに正しく伝えていくためには、繰り返しの学びで確認することが大切であることを知らせる。 ※ ワークシートで、「寝た子を起すな」の考え方について説明する。</p>	<p>□別紙県民意識調査を配布する。 □スクリーン等で示してもよい。 ■③は、調査の問いに対する自分の考えを書いてもよい。 ■資料(問23)も紹介する。</p>
<p>ワーク3 エピソードを読み、職業差別について考える。</p> <p>① エピソードを読んで感じたことを書きましょう。</p> <p>② もし、母親が、「そうよね、しっかり勉強すれば、エアコンのきいたところでお仕事ができ、日曜日だって、ちゃんとお休みになるわよ。」と言ったとすると、<input type="checkbox"/>の中はどうか(「ぼく」がどんなことを思うか)を考えて書いてみましょう。</p> <p>③ 書いたことをもとに、グループで考えましょう。</p> <p>④ グループでどんな意見が出たか、紹介してください。</p> <p>※ 親の何気ない差別意識が、子どもにも影響することを確認する。 ※ ワークシートの「差別をしない偏見をもたない子に育てるために」を読み、参加者のからの意見も交えながら親がすべきことを確認する。</p>	<p>□もう一つのエピソードをスクリーン等で示してもよい。 ■グループでの話し合いの後、全体で発表することを先に伝える。</p>

人を差別するような子にはなってほしくない

振り返ってみましょう（○：はい，×：いいえ，？：わからない）

- 差別されたことがある（○・×・？）
- 差別したことはない（○・×・？）
- 人に対する偏見はない（○・×・？）
- 同和問題について知っている（○・×・？）
- 同和問題は，自分には関係がない（○・×・？）
- 同和問題がなくなるのは，同和問題を取り上げるからだと思う。（○・×・？）
- いじめられる（差別される）側にも問題があると思う（○・×・？）

ワーク1 自己紹介ゲーム通して，感じたことを書いてみましょう。

ワーク2 人権についての県民意識調査結果に対するあなたの考えを書いてみましょう。

「そっとしておけば，差別はなくなる」「寝た子を起こすな」という考え方について
「寝た子を起こすな」という考え方で差別の問題をそっとしておいても，私たちの正しい理解と認識は深まっていかないばかりか，かえって社会の誤った認識や偏見により差別心が強められることがあります。

また，現に差別で苦しんでいる人たちに対して，声を上げることが許さず，なおも，我慢を強いることになり，差別を温存・助長することにつながってしまうこともあります。

差別をなくしていくためには，正しい理解と認識を育む教育が大切です。

■参考 平成26年度版 人権教育資料「なくそう差別 築こう明るい社会」（鹿児島県教育委員会）



エピソード

日曜日、お父さんとお母さんとぼくの3人で海水浴に行きました。空は青く、気温は30度を超えていました。途中、道路工事のため、車を止めて待ちました。車を誘導している人を見ながら、こんな話をしました。

お父さん：暑い中、大変だな。太郎はこんな暑いところで働けるかな？

ぼく：ぼく、いやだ。

お母さん：そうだね。でも、私たちが、家族で楽しい海水浴に行けるのも、暑い日も日曜日も頑張ってお仕事をしてくださる方がいらっしゃるからなのよ。

やがて、車は動き出し、誘導の人はお辞儀をして送ってくれました。ぼくは、心の中で

暑い中だけど、お仕事がんばってください。ありがとうございます。

と思いました。

ワーク3 エピソードを読んで感じたことを書いてみましょう。

ふりかえり 今日の学習を通して、どんなことを考えましたか。

差別をしない偏見をもたない子に育てるために

子どもが他人を差別し傷つけていることに気付いたときは、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。その際、「お前をそんな子に育てた覚えはない」「そんなことする子は嫌いだ」ではなく、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、人を差別したり傷つけたりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを見て笑ったり喜んだりしていることに怒りを感じたこと、二度としてほしくないこと、など親としての本当の気持ちを(“わたし”メッセージ)で伝えましょう。

まず、親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを子どもに示していくことが大切です。親自身が、人を傷つけていることにも気付かずに、笑ったり喜んだりしていることはないでしょうか。

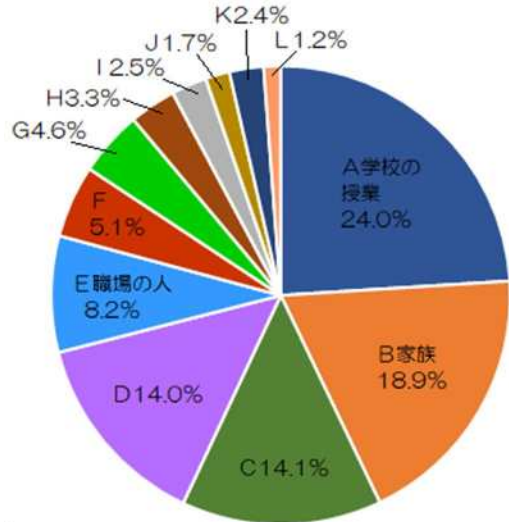
■参考 家庭教育手帳<乳幼児編><小学生(低~中学年)> <小学生(高学年)~中学生> (文部科学省)

学習資料 1

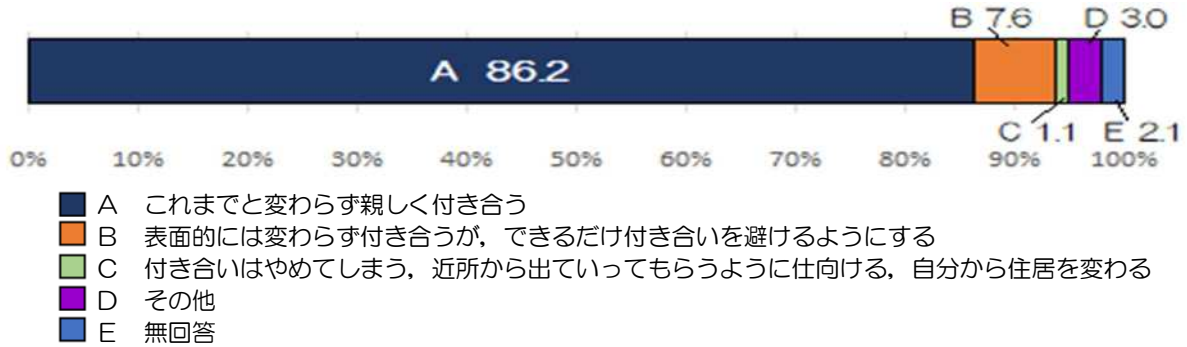
平成 30 年度人権についての県民意識調査報告（平成 31 年2月 鹿児島県）から抜粋

問 16 あなたが、「同和問題（部落差別）」について、初めて聞いたり、知ったきっかけは何ですか。

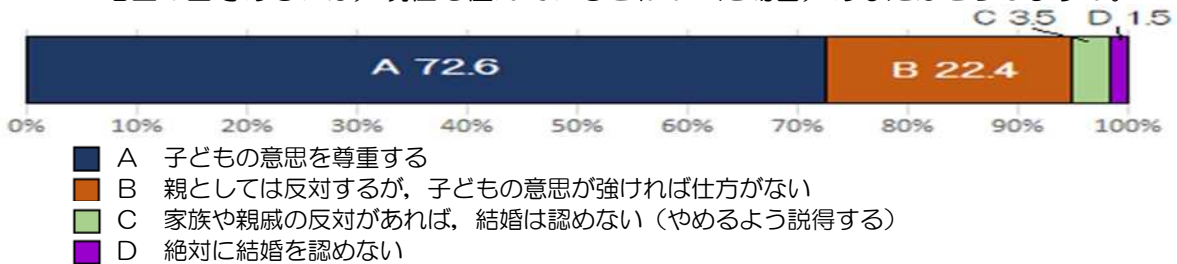
- A 学校の授業
- B 家族
- C テレビ、ラジオ、インターネットなど
- D 覚えていない
- E 職場の人
- F 集会や研修会
- G 学校の友だち
- H 近所の人
- I 広報誌や冊子等
- J 親戚の人
- K その他
- L 無回答



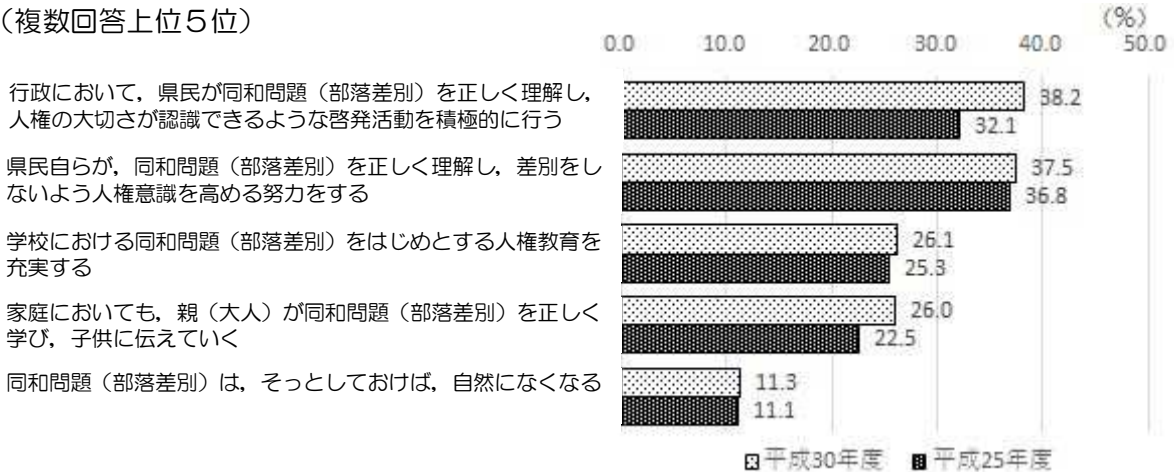
問 19 あなたの、とても親しい人が「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいるということがわかった場合、あなたはどうしますか。



問 20 あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいるとわかった場合、あなたはどうしますか。



問 23 「同和問題（部落差別）」を解決するには、どのようなことが大切だと思いますか。（複数回答上位5位）



人の値うち

何時か もんぺをはいて
バスに乗ったら
隣座席の人は私を
おばはんと呼んだ

戦時中よくはいたこの活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの
着物と思っているらしい

よそ行きの着物に羽織を着て
汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは
着物で決まるらしい

講演がある

何々大学の先生だと言えば
内容が悪くとも

人々は耳をすませて聴き
良かったと言う

どうやら人の値うちは
肩書きで決まるらしい

名も無い人の講演には
人々はそわそわして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは
学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが
部落にお嫁に来る

でも生まれた子供はやっぱり
部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれた所によって決まるらしい

人々はいつの日
このあやまちに気付くであろうか

江口いと人権の詩「人の値うち」より



同和問題（結婚差別・インターネット等による人権侵害）

1 学習のねらい

平成30年度県民意識調査結果から、同和問題に関する人権問題として多くの県民が認識している「結婚問題で周囲の反対を受けること」について、ビデオ視聴を通して考え、当事者意識を持ってその解決に努める意欲を高める。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

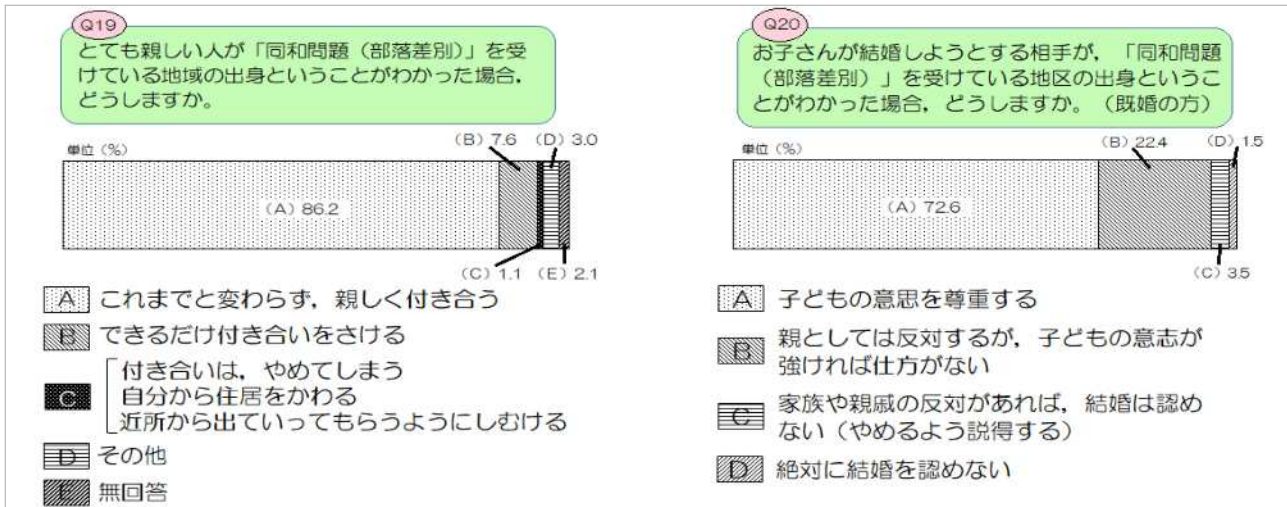
段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる （10）	1 学習のねらいの確認と雰囲気づくり (1) 学習のねらいの説明 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 現代における同和問題について、ビデオ視聴を通して考える。 </div> (2) アイスブレイキング、グループ作り ○ 後出しじゃんけんゲームで雰囲気づくり ※ ①あいこ（同じもの）、②勝つもの、③負けるもの ○ 同じチラシの一部を持っている人同士でグループ作り ※ チラシの右上部分を持っていた人が司会、左下部分を持っていた人が記録など、役割分担をする。 (3) 学習中の約束 ○ 正しいとか間違いとかはない、どんどん発言しよう！ ○ 他の人の発言を否定しない！ ○ 人権上気になることは、その場で解決、持ち帰らない！	□チラシ ※グループ数のチラシを、グループ毎の人数に切り分けたもの ■資料と一緒に配布しておく。
気付く・考える （65）	2 ビデオフォーラム (1) ワーク1 ○ H30県民意識調査Q19、Q20の結果について話し合う。 ・ 個人で考える→グループで交流 (2) ワーク2 ○ 人権啓発ビデオ『「あなたに伝えたいこと」インターネット時代における同和問題』を視聴して、話し合う。 ・ ビデオを視聴する。 ・ 心に残ったこと、心に響いたことばについて話し合う。 (3) ワーク3 ○ 同和問題の解決に向けて、どんなことが大切か話し合う。 ・ 個人で考える。 ・ グループで話し合う。 ・ 全体で発表する。（グループで出た意見を紹介する）	□ワークシート ■県民意識調査結果を示すことで、当事者意識を高める。 □DVD □DVDプレイヤー □プロジェクター □スクリーン
まとめる・広げる （15）	3 学習の振り返りとまとめ (1) 学習を通しての新しい気付きや感想の発表（参加者） ○ 次の視点で感想を発表させる。 ・ 学習を通しての新しい気付きや感想 ・ 学習の前後での同和問題に対する意識の変化 (2) 学習全体を通したまとめ（ファシリテーター） ○ テーマに関するまとめ ・ 同和問題の解決のためには、「正しく知る」ことが大切であること ○ 参加者の学習への参加状況についての賞賛 ・ 積極的な話し合いへの参加 ・ 人の話をしっかり聞く態度、互いの人権の尊重 ○ 今後への期待 ・ 学習の成果を今後の生き方に生かす ・ 周囲の人への波及	■できるだけ参加者の発表を生かしてまとめることで実践意欲を高める。 ■人権上気になる発言がなかったか確認し、あった場合は訂正し確認し合う。

3 「気づく・考える」段階の進め方と留意点

進め方([] 投げかけ)	留意点
<p>ワーク1</p> <p>○ H30県民意識調査Q19, Q20の結果について話し合う。 (1) 各自で考える。【2分間】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ワークシートの2つのグラフは、平成30年度人権についての県民意識調査結果です。 2つの結果を見て、気付いたこと・思ったことをワークシートに書いてください。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親しい人」「結婚相手」という場面の違いによって、Aの割合が違う。 ・Q20のAの割合が、Q19のAより少ない。 </div> <p>(2) 全体で話し合う。【3分間】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それぞれが思ったことをグループ内で交流してください。</p> </div>	<p>■各活動の時間を明確に伝えてから活動に入るようにする。</p> <p>■「親しい人との付き合い」と「わが子の結婚相手」という場面の違いにより、望ましい回答の割合が変化していることに気付かせたい。</p>
<p>ワーク2</p> <p>○ 人権啓発ビデオ「『あなたに伝えたいこと』インターネット時代における同和問題」を視聴して、話し合う。 (1) 各自心に残ったこと、心に響いたことをワークシートに記入する。【視聴36分、感想記入2分】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これから同和問題（結婚問題、インターネットによる人権侵害）をテーマにしたビデオを観ていただきます。視聴した後、心に残ったことや心に響いたことばなどについて話し合ってください。観ている間にメモをとりながら御覧になってかまいません。それでは、はじめます。</p> </div> <p>(2) グループ内で考えを交流する。【5分間】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>書かれたことをもとに、グループ内で交流してください。</p> </div>	<p>■視聴後の活動について予告してから視聴させる。</p> <p>■視聴後、2分間程度、個人の感想をまとめる時間をとる。</p> <p>■交流することで、考えを広げさせる。</p>
<p>ワーク3</p> <p>○ 同和問題の解決に向けて、どのようなことが大切か話し合う。 (1) 個人で考える。【2分間】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ビデオ視聴の感想を含め、同和問題の解決に向けて、どのようなことが大切か、考えを書いてみてください。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うわさに惑わされないように、正しく知ることが大切。 ・身の回りの差別に気付き、自分自身の問題として主体的に関わっていきたい。 </div> <p>(2) グループで話し合う。【8分間】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それでは、グループ内で考えを交流してみましょう。</p> </div> <p>(3) 全体で発表する。【5分間】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループで話し合われたことを発表してもらいます。まず、Aグループお願いします。次に・・・</p> </div>	<p>■「私たちはどう行動するか」という視点で考え、交流させる。</p>

ワークシート

ワーク1 人権についての県民意識調査結果（H30）について話し合う。



☆ 上の2つの結果を見て思ったこと

ワーク2 ビデオを視聴した感想を話し合う。

☆ 資料名：「あなたに伝えたいこと」～インターネット時代における同和問題～

【内容あらまし】
同和問題は、地域改善対策の結果、生活環境などハード面の改善は進んだが、結婚差別や身元調査など、意識の面では依然として課題が残されている。また、インターネットには、利便性ととも、差別的な書き込みやネット依存など陰の部分もある。
この物語の主人公は、結婚話を発端に、恋人や友人、家族などとの関わりから、同和問題が身近な問題であることを知る。ネット上の情報に左右されることなく人とふれあい、お互いを正しく知ることが、同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝える。

☆ ビデオを視聴して心に残ったことや心に響いた言葉

ワーク3 同和問題の解決に向けてどのようなことが大切か考える。

同和問題に関するDVD一覧

資料番号	タイトル	DVDの概要	人権課題	時間
186	同和問題と人権	同和問題とは、いったいどのような問題なのか、どうしてこのような問題が存在し、なぜなくなるのか。同和問題を正しく理解し、同和問題を解決するためにはどうすればよいのか、この映像作品を見ながら、一緒に考えてみませんか。	同和問題	28分
204	私の中の差別意識	部落差別問題を通し、人の中に巣食う差別意識への気づきを促してゆきます。 あからさまな部落差別は影を潜めましたが、まだまだ結婚差別や就職差別などは残っているのが現状です。この作品では、ドキュメンタリーを通し、差別された人々の心の痛みを伝えつつ、どうすれば差別がなくなるのか考えるきっかけを提供します。そして、自らの差別意識に気づき、正しい知識や判断力を持つことの大切さを伝えます。	同和問題	24分
205,211	人権のヒント(地域編)	人権と言うと、なんだか難しいものだと考えがちですが、私たちの日常生活の色々な場面に「人権のヒント」は隠されています。この作品はドラマの手法を使って、日常に潜む人権問題を「地域」としての視点から切り取っています。自分の中の人権意識を考えるためのきっかけにさせていただくことをねらい、制作されました。	総論	25分
212	人の世に熱と光を	【部落の心を伝えたいシリーズ】 21世紀の人権文化の思想的原点である『水平社宣言』。その精神を清原隆宣氏は、ズバリ「水平のものさし」の見直しという。人は何故、平等になれないのか。人は何故、尊敬し合えないのか。西光万吉の系譜を引く清原隆宣氏を通して、『水平社宣言』の核心を描いた画期的ノンフィクション。	同和問題	26分
216,223,224	今、地域社会と職場の人権は！	この作品は、「高齢者の問題」「子育てする女性の問題」「パワハラ・セクハラの問題」「同和問題」に焦点をあて、研修が行いやすい4部構成になっています。 【第4章 同和問題、差別のない明るい社会を！】 未だ根強く残る同和問題。なぜ無くならないのか？ 一人ひとりの心の問題を問う作品です。	高齢者 女性 同和問題	36分
217	差別意識の解消に向けて 第1巻人権のまちづくり	今日の部落差別は、「同和地区の土地に対する忌避意識」がその根底にあります。地区内外の人たちが、生活現場で協働して差別意識の解消に向けて取り組んでいる「人権のまちづくり」とおして、差別や偏見の解消に取り組む人々の思いを伝えます。	同和問題	29分
230,231	ほんとの空	高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これらに共通する根っここの部分は、誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」である。 誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解している。その一方で、自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するが、それ以外のことは他人事のように感じたりする。また、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかず、他者を排除したり傷つけたりしがちである。 誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。すべての人権課題を自分に関わることとしてとらえ、日常の行動につなげていこうと訴える。	高齢者 外国人 同和問題 原発事故に伴う風評被害等	36分
243	東山文化を支えた「差別された人々」	世界遺産である銀閣寺や龍安寺の庭園などをつくったのは、実は差別されていた人々であったという歴史事実は、被差別の人々のマイナスイメージを逆転させました。東山文化を支えた人々の様子を丁寧に描きます。学習教材としても最適です。	同和問題	16分
244	江戸時代の身分制度と差別された人々	最新の研究成果を反映させ、中世に始まったすべての身分が、居住地や税制、戸籍などで固定され、江戸時代に「制度化」されたことを新しい図式を提示して分かりやすく解説するとともに、それを乗り越えて生きた人々の姿を明らかにしました。学校教育にも最適です。	同和問題	15分
245	あなたに伝えたいこと	この作品のテーマは「インターネット時代における同和問題」です。同和問題の解決を図るため、30年以上にわたって地域改善対策が行われてきました。その結果、生活環境などハードの面の改善は進みましたが、結婚差別や身元調査など、意識の面では依然として課題が残っています。また、時代の経過とともに、同和問題についての正しい理解を得る機会が少なくなっています。 そんな中、この作品は同和問題を正面から取り上げ、この問題が決して他人事ではないこと、正しく知ることが同和問題をはじめとする人権問題の解決につながることを描きます。	インターネット 同和問題	36分
246,256	イマジネーション 想う つながる 一歩ふみだす	舞台は小さなラジオ局 様々な人が番組を聞きながら 心を通わせ 明日へとつながる 一歩を見つけていく あなたはimagination できてますか？ ・子供の人権-いじめ問題-・同和問題-障害者の人権-発達障害-	子ども 同和問題 障害者	34分
249,250	同和問題 (1)過去からの証言、未来への提言 (2)未来に向けて	この教材は、我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等のさまざまな団体における人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべき同和問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心に分かりやすく簡潔にまとめています。また、一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる有効なツールとしての映像も併せて制作し、同和問題の解決のために次世代へ伝承することを目的としています。	同和問題	(1)61分 (2)19分

※ 男女共同参画局人権同和对策課に保管しており、貸し出しできます。

<お問い合わせ> TEL099-286-2574

障害者の人権（障害者の手記をもとにした学習）

1 学習のねらい

障害のある人が日常生活の中で不利益を被り、自立と社会参加を阻まれている現状があり、私たちには、障害の有無に関わりなく、誰もが尊重し支え合う「共生社会」を実現することが求められている。

障害のある人の人権について正しい理解と認識を深め、誰もが暮らしやすい地域にするために、私たち一人一人ができることを考える。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる (10)	<p>1 学習のねらいの確認と雰囲気づくり</p> <p>(1) 学習のねらいの説明</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>障害のある人の人権について正しい理解と認識を深め、誰もが暮らしやすい地域にするために、私たち一人一人ができることを考えよう。</p> </div> <p>(2) アイスブレイキング「パズルゲーム」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① グループごとで、新聞紙を適当な大きさに10枚ほどに破ってください。</p> <p>② 違うグループと交換してください。</p> <p>③ では、パズルを組み立てます。できたグループは手を挙げてください。</p> <p>④ では、2回戦です。今、グループにあるパズルを更に破って、20枚ほどに細かくしてください。</p> <p>⑤ 違うグループと交換して、先ほどと同じようにパズルを組み立てます。</p> </div>	<p>□グループづくり</p> <p>□新聞紙</p> <p>■いろいろな形の組合せで1つの完成形となる。障害の有無に関わらず、地域を構成する大切な一人である。障害のあることは、特別なことではなく、個性としてとらえていきたい。との考え方を持ちながら進行する。</p>
気付く・考える (45)	<p>2 アクティビティ（活動）</p> <p>(1) ワーク1 手記を読んで、感じたことや考えたことを話し合う。</p> <p>(2) ワーク2 ・ 資料①をもとに、障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）について考える。</p> <p>・ 資料②・③をもとに、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、法令等について理解を深める。</p> <p>(3) ワーク3 ・ ワーク1・2をもとに、誰もが暮らしやすい地域づくりのために、私たちがができること、心がけていきたいことについて考える。</p>	<p>□ワークシート</p> <p>■個人→全体</p> <p>■個人→グループ→全体</p> <p>■個人→全体</p>
まとめる・広げる (5)	<p>3 学習の振り返りとまとめ</p> <p>(1) 学習を通しての新しい気付きや感想の発表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日の学習の感想を発表してもらいましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日の学習をとおして、家族に伝えたいこと、一緒に考えたいことをワークシートに書いてみましょう。ぜひ、各家庭で話題にしてみましょう。</p> </div> <p>(2) 学習全体を通じたまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>障害のある人が暮らしやすい地域は、誰もが暮らしやすい地域です。ふれあいや語り合い、学び合いを通して、みんなが暮らしやすい地域づくりを進めましょう。</p> </div>	<p>■挙手等により、発表してもよいという意味を確認の上発表してもらおう。</p> <p>■学習内容を家庭でも話題にし、障害者に対する人権問題について広く考えられるよう働きかける。</p>

3 「気付く・考える」段階の進め方と留意点

進め方（ <input type="checkbox"/> 投げかけ ）	留意点（■） 準備等（□）
<p>ワーク1</p> <p>○ 手記を読んで、感じたことや考えたことを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ワークシートにある手記を読んで、感じたことや考えたことを話し合ひましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お金を落とさない自販機であればよいのに。 ・ 障害のある人にとっては、ジュースを買うだけがんばらなければならぬといけぬのだなあ。 ・ 今の現状では、仕方のないことだ。 ・ 冷たい人が多い。助けてあげればよいのに。 ・ 私たちが、障害のある方の状況に気付くアンテナも必要だ。 ・ 障害のある人には、住みにくい社会である現実がある。 ・ 「人はひとりでは生きられない。」障害のあるなしに関わらず、住みよい地域で会って欲しい。 </div>	<p>□ワークシート</p> <p>■個人の感想として、自由に意見を記入し、全体ではじめの意見を共有する時間を設ける。</p> <p>■障害のある人にとって住みやすい社会は、障害のない人にとっても住みやすい社会であるという視点を持って進行する。</p>
<p>ワーク2</p> <p>○ 障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>資料①のグラフをもとに、障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）について、考えましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される回答】</p> <p><地域・社会の環境として></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道やバス等の乗降口の段差 ・ スロープの未設置 ・ 自販機の硬貨投入口の高さ ・ 狭い公衆トイレ ・ 点字ブロック上の障害物 ・ 盲導犬等への理解不足 <p><人の心理・行動として></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無関心 ・ 誤った理解 ・ 偏見 </div>	<p>■資料①のグラフを説明し、バリア（障壁）を考える際の視点として、Ⅰ地域・社会の環境、Ⅱ人の心理・行動の2点を示す。</p> <p>■個人で考えた後、グループで意見を交換し、グループごとに発表させる。</p>
<p>○ バリアフリー、ユニバーサルデザイン、法令等についての話聞く。</p>	<p>■ノーマライゼーションの考え方については、必ず説明する。</p>
<p>ワーク3</p> <p>○ 誰もが暮らしやすい地域にづくりのために、私たちがができること、心がけていきたいことについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ワーク1・2をもとに、誰もが暮らしやすい地域にするために、私たち一人一人ができること、心がけていきたいことについて考えましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある方へ積極的に声かけをしていきたい。 ・ 障害者の人権についてもっと深く学んでいきたい。 ・ 研修会等に参加して障害や障害者の人権に、制度や法令についても学びたい。 ・ 多くの方々が参加できる地域での交流機会を持ちたい。 ・ 多くの人とノーマライゼーションの考え方を共有していきたい。 </div>	<p>■障害の有無に関わらず、全ての人々が、その人らしく生きることのできる社会にしていくことが、障害者の人権を考える上で重要であることを説明する。</p>

ワークシート

共に生きる社会を

ある夏の暑い日…

自動販売機でジュースを買おうとしたが、うまくお金を入れることができなくてお金を溝に落としてしまった

再度挑戦したけど、またしても溝に落としてしまった

暑くてのどはカラカラ…

自動販売機と格闘して、すでに十五分が経ち、二〇〇円も失っていた

再再度挑戦しようとしたとき、私の頭の中で、天使と悪魔がささやいた

天使は、「三度目の正直」がんばれ…

悪魔は、「二度あることは三度ある」無理、無理、あきらめろ

そのとき、第三の方法がひらめいた

私は、勇気を出して通りかかる人に声をかけた

案の定、無視されてしまった

それから四人目になって、その人が笑顔で手伝ってくれた

私は、渴いたのどをやっと潤すことができた

そのとき私は、こう考えた

自分で出来るようになることも大切だけど、努力しても出来ない事もあるのだから、困ったときに『自分の思いを言葉にして相手に伝えること』も大切だ

たくさんの人と出会い、いろんな話をし、自分の感性が磨かれていく…

人はひとりでは生きられないから“人”

みんながいる ありがとう

平成24年度「なくそう差別 築こう明るい社会」から引用

ワーク1

上の手記の作者は、生まれたときの影響で手が不自由なため、食事やパソコン、携帯電話の操作など生活の全てを足で行います。

この手記を読んで、感じたことや考えたこと等を書いてみましょう。

ワーク2

私たちの住む地域の環境や私たち自身の心理・行動の中にある、障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）にはどのようなものがあるでしょう。

「Ⅰ 地域・社会の環境」、「Ⅱ 人の心理・行動」の2つの観点で、身の回りを見直し、グループで話し合ってみましょう。

Ⅰ 地域・社会の環境	Ⅱ 人の心理・行動



ワーク3

障害のある人もない人も共に生きる地域づくりのため、地域で行っていることをあげてみましょう。また、これから地域でできることや自分自身ができることは何だと思えますか？

現在地域で行っていること	これから地域で必要なこと 自分自身ができること



ワーク4

学習のまとめ（感じたこと、家族に伝えたいこと）

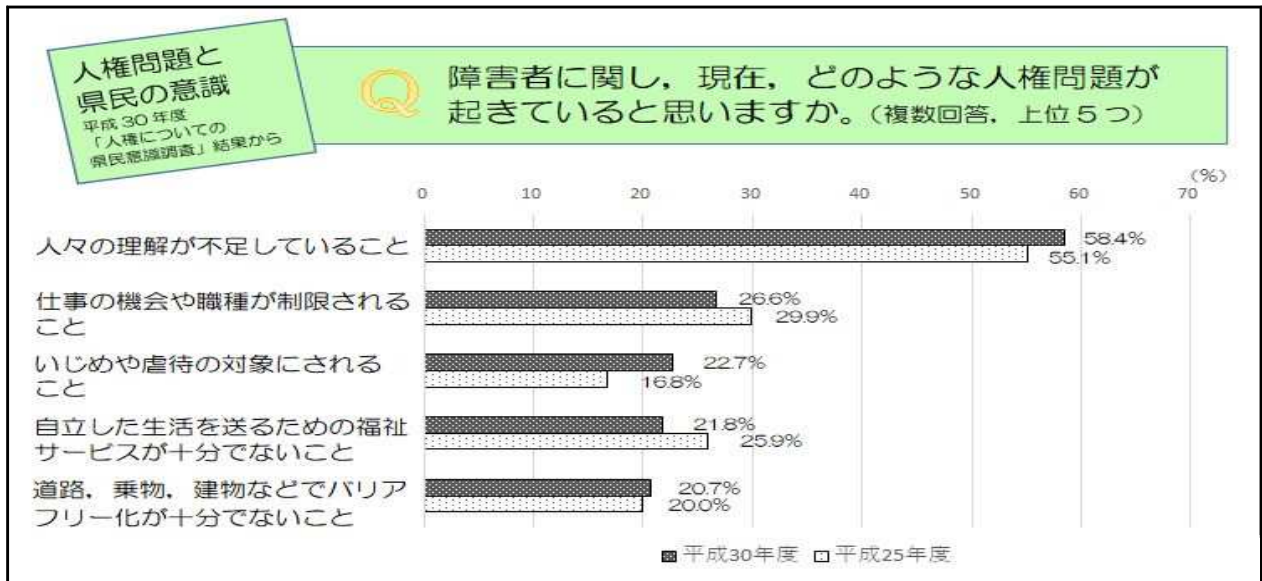
今日の学習を通して、家族に伝えたいことなどをまとめましょう。



学習資料

資料①

【人権問題と県民の意識：平成30年度人権についての県民意識調査結果の報告から】



資料②

【身の回りにおけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン、障害者に関するマーク】



- バリアフリー：すでにある障壁（バリア）を取り除くこと。
- ユニバーサルデザイン：全ての人々が利用しやすい施設や製品等をデザインするという考え方。



多機能トイレ



シャンプー容器側面の刻み



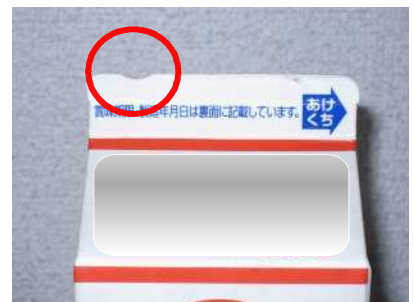
ビール缶の点字表示



ユニバーサル自販機



点字ブロック



牛乳パックの切れ込み

■障害者に関するマーク

街で見かける障害者に関するマークには、主に次のようなものがあります。

				
障害者のための国際シンボルマーク	身体障害者標識	視覚障害者標識	盲人のための国際シンボルマーク	
				
耳マーク	ほじょ犬マーク	オストメイトマーク	ハートプラスマーク	障害者雇用支援マーク

資料③【知っておきたい人権ワード】

■ノーマライゼーション

障害のあるなしに関わらず、みんなが同じように暮らせる地域社会であることが当たり前（ノーマル）という考え方。

■障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）（平成28年4月1日）

障害のある人に対して、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めている。そのことによって、障害のある人もない人も共に暮らせる社会を目指している。

■障害者虐待防止法（平成24年10月1日）

障害者に対する虐待の禁止及び虐待を受けた障害者の保護・自立支援、その養護者への支援措置、虐待を発見した場合の通報義務等を定めている。

■障害者雇用促進法（平成28年4月1日）

障害者に対する差別の禁止、事業主への合理的配慮の義務、苦情処理・紛争解決援助等を定めている。

■障害のある人もない人も共に生きる鹿児島づくり条例（平成26年10月1日）

障害を理由とする差別の解消を目的とし、障害を理由とする差別の禁止、障害を理由とする差別に関する相談員の設置等を定めている。

■発達障害

通常、低年齢期において発現する脳機能の障害から、他人の気持ちや感情を理解することが苦手な場合があり、外見では障害があることがわかりにくく、行動や態度から誤解を受けることがある。

■内部障害（難病を含む）

心臓や呼吸機能など体の内部に障害を持ち、不自由さが外見から分かりにくいため、「障害者ではないのに」と誤解を受けることがある。

■精神障害

脳機能の障害の一つで、うつ病、統合失調症、不安障害、認知症などがあり、日本では5人に1人はかかると言われている。時に不自然な言動から、誤解を受けることがある。

インターネットによる人権侵害

1 学習のねらい

インターネットは、誰でも容易に情報発信ができる便利なものだが、発信者の匿名性が高いため、他人を誹謗中傷したり差別を助長したりする書き込み等の人権侵害が増加し、社会的な問題となっている。

誰もが、加害者にも被害者にもなりうるインターネット上の人権侵害の実情を知り、気をつけるべきことを学ぶ。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる (5)	<p>1 学習への方向付け</p> <p>(1) 画用紙等書かれたスラング（俗語）を提示し、その意味を皆で推量しながら、学習内容への方向性をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あーね」（あーそうだよ。同意し、相づちを打つ） ・「K S」（既読スルー。ラインの受信を読んだのに返信なし） ・「disる」「ディスル」（批判する。悪く言う） 	<p>□カード「あーね」「K S」「disる」など</p> <p>■カードを提示しながら、時間に応じてクイズ形式で楽しむ。</p>
気付く・考える (45)	<p>2 アクティビティ（活動）</p> <p>(1) ワーク1 インターネットのよさや問題点について話し合う。</p> <p>ア インターネットのよさを考える。</p> <p>イ 資料を基にインターネットの問題点について話し合う。</p> <p>ウ 各グループで話し合ったことを全体の場で共有しながら問題点を整理し、どんな社会問題が起きているか話し合う。</p> <p>(2) ワーク2 ネット社会の特質から自分自身が心がけることについて考える。</p> <p>ア 人権侵害が起こりやすいネット社会の特質を考え、話し合う。</p> <p>イ 自分自身が人権侵害を起こさないために、普段から心がけることを考える。</p>	<p>□ワークシート</p> <p>■法務省HP資料や新聞記事等、学習者に適した資料を準備し提供すると効果的である。</p> <p>■インターネット上の匿名性を押さえ、問題の所在は、利用者の心にあることを理解させる。</p>
まとめる・広げる (10)	<p>3 学習の振り返りとまとめ</p> <p>(1) 学習を通しての新しい気付きや感想の発表</p> <p>ア 気付きや感想をワークシートに記入する。</p> <p>イ 全体の場で発表する。</p> <p>(2) 学習全体を通じたまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>書き込みをするパソコンやスマートフォンは機器であるが、その向こう側にいるのは、血の通った人間である。</p> </div> <p>(3) 自宅に帰ったら、ワークシートにまとめた感想を家族にも話すよう提案する。</p> <p>※ スラング「乙」の文字カードを提示し、意味を考えさせる。（「乙」：お疲れ様でした！で終了）</p>	<p>□ワークシート</p> <p>■感想発表は希望者のみ行う。</p> <p>■家庭での学びに繋げる。</p>

3 「気付く・考える」段階の進め方と留意点

進め方（ <input type="checkbox"/> 投げかけ ）	留意点
<p>ワーク1</p> <p>○ インターネットのよさや問題点について話し合う。</p> <p>(1) インターネットのよさを話し合う。</p> <div data-bbox="255 414 981 504" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>パソコンやスマートフォンで行うインターネットにはどんなよさがありますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集 ・ 世界中とのつながり ・ 勉強や楽しみ ・ 障害者の支援 ・ 不特定多数との交流, 意見交換 など <p>(2) 資料や経験をもとにインターネットの問題点と人権侵害について話し合う。</p> <p>ア 問題点を話し合う。(個→グループ)</p> <div data-bbox="255 739 981 862" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新聞記事や自分自身の経験を基に、インターネットにはどんな問題点があると思いますか。グループ内で話し合ってみましょう。</p> </div> <p>【予想される反応(問題点)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 顔が見えない(情報発信の責任感の希薄化) ・ 情報の信ぴょう性, 責任の所在が不明確 ・ アダルトサイトなどへのアクセス ・ コンピュータウイルスへの感染 ・ 個人情報の流出 など <p>イ インターネットの問題点がどのような人権侵害につながるかを考える。(個→グループ→全体)</p> <div data-bbox="255 1198 981 1310" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>インターネットの問題点から、具体的にどんな人権侵害につながるかを考えてみましょう。思いつくことをどんどん出し合ってみましょう。</p> </div> <p>【予想される反応(人権侵害)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめや仲間はずれ ・ 差別書き込み, 名誉毀損 ・ 個人情報の無断掲載や転載 ・ 誹謗中傷, 誤った情報の拡散 ・ リベンジポルノ <p>ワーク2</p> <p>○ ネット社会の特質から自分自身が心がけることについて考える。</p> <div data-bbox="255 1680 981 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分自身が、インターネット上で起こる人権侵害の加害者や被害者にならないためには、どのような心がけが大切でしょうか。</p> </div> <p>【予想される反応(心がけ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 面と向かって言えないことは、ネット上に書き込まない。 ・ むやみに個人情報を掲載しない。 ・ インターネットの情報を無批判に信じ込まない。など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ IT機器の負の面ばかりが強調されないよう、IT機器はわたしたちの生活を豊かにしてくれるツールであることを押さえる。 ■ 資料は、テキストの新聞記事を活用してもよいが、学習者に適した資料があれば、事前に準備しておく。また、多様な事例が取り上げられるよう、複数の資料を準備しておくことが望ましい。 ■ ブレインストーミングの要領で話し合わせ、多くの考えを引き出す。 ■ これらのことはすべて人権侵害であることを押さえる。 ■ ネット社会は、匿名性が高いため(ばれないため)、無責任な書き込みが行われやすいこと、一旦ネット上に出了された情報は、コピーや複製が繰り返され、完全に消し去ることは不可能であることを押さえた上で考えさせる。

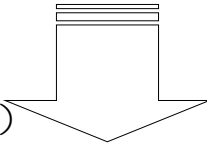
ワークシート

《ワーク1》インターネットの「よさ」「問題点」について

インターネットのよさ

インターネットの問題点

インターネットの問題点がどんな人権侵害につながるのであろう？
(考えられることを、できるだけたくさん書き出しましょう)



《ワーク2》自分自身が被害者・加害者にならないためには？

A large dashed-line box for writing answers.

学習のまとめ（感じたこと、家族に伝えたいこと）
今日の学習を通して、家族に話したいことをまとめましょう。

書き込み執拗 被害急増

ネットストーカー、中高生ら標的

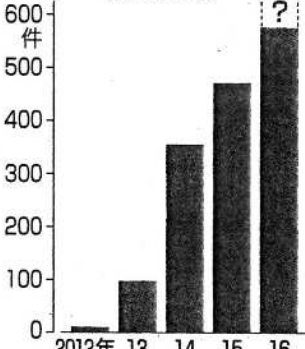
インターネット上に執拗な書き込みなどをして付きまとう「ネットストーカー」の被害が急増している。見知らぬ人と簡単につながる会員制交流サイト(SNS)の普及が背景にあるが、ストーカー規制法にはSNS規制は明文化されておらず、国会で改正に向けた手続きが進んでいる。被害は中高生に目立っており、専門家は気軽に個人情報を投稿しないよう警告している。

SNSの規制強化へ

「死ぬ」「殺すぞ」。
今年5月以降、東京都の高校1年の女子生徒(16)の元には、無料通信アプリLINE(ライン)で知り合った男(20)からこんなメールが1日100通ほど届く。初めは好意を持っていたが、返信をしつこく求められ、プロックすると男の態度が急変。事実無根のうわさを生徒の友人に拡散するなど、嫌がらせがエスカレートした。

ネットストーカーとは、ラインやツイッターなどのSNSやメールを使い、特定の相手に好意や恨みを募らせ

ネットストーカー被害の相談件数



※16年は10月まで。全国webカウンセリング協会による

て嫌がらせを繰り返す行為を指す。
ネットのトラブル相談に応じる「全国webカウンセリング協議会」(東京、安川雅史理事長)によると、相談件数は統計を始めた2012年は10件だったが、13年は97件と急増。その後も増加傾向で、16年は10月までで577件と既に過去最多となった。
内容はSNSで知り合った異性との問題が多く「交際を申し込まれ、断ると『自殺する』とメッセージを送ってきた。アカウントを何度も変えているが特定されてしまう」(広島県の高3女子生徒)「ブログで通学先を調べ、

今年5月に東京都小金井市で音楽活動をしていた富田真由さん(21)がファンの男に刺され、一時重体となった。

事件を教訓に、自民、公明両党は10月、SNSを新たに規制対象とする改正案をまとめた。ある自民党議員は「命に関わる問題。早

学校の校門で待ち伏せしていた。『一緒に帰ろう』と誘われ、断るとブログに書き込みを繰り返していった。だが、富田さんの相談を受けた警視庁は事件を防げず、ストーカー規制法の不備も問題視された。

た事件では、富田さんは男からツイッターに執拗な書き込みをされていた。だが、富田さんの相談を受けた警視庁は事件を防げず、ストーカー規制法の不備も問題視された。
安川理事長は「ネット上に一度公開された個人情報は簡単に消せない。不特定の人が読むサイトには住所や連絡先は書き込まず、個人情報を含む時は公開範囲を『友人』に制限するなど自衛策も大切だ」と話している。

警視庁と日本サイバー犯罪対策センター(JCC3)は7日、ウイルスが仕込まれたスパムメール(迷惑メール)の発信とほぼ同時に、メールを開封しないよう速報で注意を呼び掛ける運用を始めた。速報は警視庁犯罪抑止対策本部や広報課のツイッターアカウントなどで発信する。
警視庁サイバー犯罪対策課によると、これまではウイルス感染による被害報告を受けた後にウイルスを解析し、同種の迷惑メールに注意するよう呼び掛けていた。注意喚起

警視庁が迷惑メール速報

のタイミングを早めることで、被害を小さくすることが期待される。
サイバー犯罪対策課はさまざまなウイルスを解析。その結果、特定のウイルスが攻撃者から「スパムメールを送れ」
発信とほぼ同時に
どの指令を受け取り、発信されていることを突き止めた。同課はその指令をリアルタイムで確認することに成功。早ければ、受信者にメールが届くのとほぼ同時に警戒情報を出せるという。

人権コラム「ちょっといい話」

こんな「ちょっといい話」があふれる地域になるといいですね。

やりげなく

息子をベビーカーに乗せて、師走の買い物に出かけたときのこと。お店の地下の総菜売り場で十段くらいある下り階段に行き当たりました。ふと周りを見渡すと、壁面に「ベビーカーや車イスの方はお近くの従業員までお気軽にお知らせください。」と案内がありました。でも、従業員の皆さんは、忙しいです。人の波も後から押し寄せてきます。引き返すこともできず、ベビーカーごと持ち上げて降りようとしたときでした。ふっと、軽くなった気がしました。横を見ると、中年の女性が、一緒に持ち上げてくださったので、そのまま階段を一緒に下りると、「ありがとうございませう。」と言いつつ、終わらないうちに、女性は、ほほえんで人混みの中に消えて行かれました。

またある日のこと。たまには、外に食べに行こうということで、まだ小さい息子を連れて出たときのことです。妹と私が、息子を交代で抱っこしながら、食事をしていると、隣の席で食事を済ませられた（年配の）女性が、「私が抱っこしているからその間に食べなさい。」と、声をかけてくださいました。「大丈夫ですよ。」と言いつつ、「いいのよ。子どもが小さいと、ご飯もゆっくゆっく食べられないでしょ。」と、ひよいっくと半分奪うような感じで抱っこしてあげてくださった。二、三分ほどでしたが、その間、お言葉に甘えて食

事をする事ができました。小さい子どもをこんな場所に連れてきて・・・と冷やかな視線を感じることもありますが、ありがたい申し出でした。

子育て中は、張り詰めた気持ちの中で責任感をもって子どもを育てているのではないのでしょうか。私は、誰にも迷惑をかけず、自分たちで育てる、そんな風に思っていました。だけれども、たまには、息抜きしたい、ほっとしたい、そんな気持ちもありました。人の手を借りるつもりもないし、迷惑もかけたくない、そんな中で、さりげない優しさに出会うとほろりとしてしまいます。ピンと張り詰めた空気が和む瞬間です。

あの方たちのように、さらりと手を差し伸べられたら、あのとときのよう、こちらが困っていてもいなくても、さりげなく手助けできればいいなと思います。経験のなせる技なのかもしれないし、常日頃から意識付けができてい



朝のひととけ

通勤途中で赤信号で停車した時、補助具を使いながら横断歩道をゆっくりと歩くおじいさんがいました。一歩一歩が十数センチほどの歩幅で、必死に歩いているようでしたが、なかなか前に進みません。

ようやく横断歩道の中央付近に来た時には、歩行者用の信号が点滅を始めていました。「信号が変わるまでに横断することは難しいぞうだな。」と気にしながら見ていると、このおじいさんに寄り添い守るように、同じペースで横断歩道を歩く男性が現れました。停まっている車に「もう少し待ってください。」と頭を下げ、気を配りながら一緒に歩いていきました。

実はこの男性は、その直前におじいさんと横断歩道ですれ違っていた男性でした。すれ違った後に、どうしても気になったのか、横断歩道の途中で振り返り、そして、引き返しておじいさんに寄り添ったのでした。おじいさんが渡り終える前に歩行者用の信号が赤になるのは確実でした。多くの車が列をつくって待っています。そんな中、おじいさんに寄り添わずにはいられなかつたのでしょうか。

「信号が変わるまでに横断することは難しいぞうだな。大丈夫かな。」という心配と同時に、私には「早く渡ってくれないかな。」という思いが少なからずありました。

「自分はおの男性と同じように、引き返して一緒に寄り添うことができるだろうか?」「この男性の行動を見て、いつもと同じ通勤が気持ちのよい朝のひとときになり、その中で自分自身と向き合うことにもなりました。」

「鹿児島県＞教育委員会＞学校教育＞人権同和教育＞ちょっといい話」

ほかにも心温まる「ちょっといい話」が紹介されています。ぜひご覧ください。